八千代市における「新川わくわくプレーパーク事業」のこれまでの取り組みこれからのあり方

Previous Efforts and Future Issues on the “Shinkawa Waku Waku Play-Park Project” in Yachiyo City

前　田　信　一
MAEDA, Shinichi

キーワード：プレーパーク、子どもの遊び場、市民参加、子育て支援、ボランティア

はじめに

千葉県八千代市では平成17年3月作成の次世代育成行動計画の重点施策として「既存施設のプレーパーク化」を目指し推進してきていたが、既存施設で適当な施設がなかった。そんな中、県立公園として予定していた「八千代広域公園予定地」の一画を県より借りることができるようになり、市民・NPO法人（こども福祉研究所）・行政の協働で「新川わくわくプレーパーク事業」進められてきた。平成20年5月10日にオープンセレモニーが行われ現在までプレーパーク事業が行われてきている。

こども福祉研究所理事長森田明美が委託契約したプレーパーク事業の初年度の運営を、筆者は井上仁（同法人事務局長・日本大学）と一緒に行ってきた。平成21年度より、市民の会がNPO法人となり運営を引き継いで現在まで継続してプレーパーク事業を行ってきている。

新川わくわくプレーパーク事業の活動に携わってきた。これまでの取り組みと課題について述べて行きたい。

第１章　オープンまでの取り組み

1. プレーパーク事業のはじまり

平成17年に千葉県が主催したタウンミーティングの中で、子どもたちの声として「何の決まりのないまっ白な広場が欲しい」との意見が出され千葉県の補助事業として、平成18年度よりまっ白い広場づくりモデル事業（プレーパークづくり）として事業化された。

八千代市では平成17年3月作成の次世代育成行動計画の重点施策として「既存施設のプレーパーク化」を推進してきていたが、適当な既存施設がなかった。そんな中、県立公園として予定していた「八千代広域公園予定地」の一画を県より借りることができるようになり、市民・NPO法人（こども福祉研究所）・行政の協働で「新川わくわくプレーパーク事業」が進められてきた。平成20年5月10日にオープンセレモニーが行われ、現在までプレーパーク事業が行われてきている。

2. プレーパーク事業開設までの経過

平成19年10月15日号の「広報やちよ」で市民ボランティアを募集、11月17日に公募による第1回「八千代市にプレーパークを作る会（仮称）」実行委員会（以下実行委員会）を開催した。実行委員会は、東洋大教授森田明美の講演「こどもの育ちを支える大人の役割」、県主催の「まっ白広場づくり推進のための研修」、四街道市プレーパーク「どんぐりの森」視察、市民講座救急救命講座、「プレーパークの意義と展開」川崎市子ども夢パーク所長西野博之などの研修に定期的に参加し、準備を行ってきた。また、この間、市民・NPO・行政職員等で8回の会議を行ってプレーパーク事業の立ち上げに向けての検討や事業地の整備を行ってきた。

平成20年4月13日には、実行委員会を「八千代市民プレーパークの会」に名称変更し、設立総会を行う。同会は「自分の責任で自由に遊ぶ」ことを趣旨とし、子どもたちの創造性、協調性、自主性を養いながら活き活きとすごせる遊び場を提供するための運営を試行発展させることを目的とする。活動内容は、「子どもたちの様々な冒険遊びに必要な援助・相談・資材準備に協力をする。プレーパークの行事に参加する。地域や公共団体との協力体制づくり、諸団体との交流の推進に協力する。プレーパークの活動を深めるため諸団体との交流の推進に協力する。その他プレーパーク実施に関わる諸問題の解決に協力する。」である。会員には、「この会則に賛同し、

こども教育宝仙大学　専任講師

自主的にこの活動を支える意志を持つ地域住民・学生・その他18歳以上のものであれば誰でも会員になることができる。入会及び退会は所定の用紙にて届け出る。」となっている。

平成20年度秋を目途にNPO法人を立ち上げ、平成21年度には法人の契約ができることを目指してた。

3. 八千代市プレーパーク事業の概要

① 八千代市プレーパーク事業（資料１参照）

・実施場所
千葉県八千代市萱田地区県立八千代広域公園事業敷地内の一部を借用し実施（県とは協定締結）

・事業開始時期・回数
平成20年５月の児童週間に開設、原則週２回。

・事業の運営形態
市がプレーリーダー雇用などに補助金をつける。八千代市プレーパーク受託事業として、市民協働型のプレーパークの開発運営を行う。その中で自然環境保全、プレーパークへの市民参加、市民講座で子どもの権利擁護の学習会の開催・市民ボランティアの受け入れ、市民の会との運営協力、子どもの居場所事業との連携、学生派遣協力を各大学と行ってきた。

② プレーパークで重視したい５のポイント

・子どもの生活圏にある。
・いつでも遊べる（八千代市は当面土・日開催、平日は保育所等団体貸しを検討）。
・誰でも遊べる（子どもも大人も利用できる遊び場）。
・自然豊かな野外環境である。
・作りかえのできる手づくりの要素がある。（恒常的な遊具の設置等は行わない。子ども自身が自分で作る。）

③ 事業内容

・木登りや泥んこ遊び、秘密基地等、子どもの自由な発想や独自性、自主性をできる限り尊重する。
・子どもが自然の中で自由に仲間と力を合わせ活動し、自然につつまれる心地よさや感情を育む。
・人間としての心や健やかな身体が育める遊び場を実現するため、以下のゾーンを設置。遊びの広場3,300㎡、子どもの森4,000㎡

④ プレーパーク運営のためのポイント（八千代市の基本的考え方）

・住民による運営-「地域の子どもをどう育むか」「自分の責任で遊ぶ」という理念を共有化するため住民主体の自主的な継続的活動。
・行政と住民のパートナーシップによる運営-行政が施策として位置づけ、行政の協力連携による場の確保や広報、経済的な支援、行政と住民で子どもの現状について協議連携が図れる。
・プレーリーダーの配置（安全の確保）――プレーリーダーは最も子どもの視点に近い立場で遊びに関わる大人であり、子どもの「やってみたい」という遊び心を引き出す。高校生・大学生等の活用により子ども活動を支える人材を育成、大人リーダーによる地域人材資源を開発する。

⑤ プレーパークが果たす多様な役割（八千代市としての期待）

・子どもにとって家庭・学校以外の居場所として異年齢・他世代と触れる場、様々な自然環境による学習体験を通じての学びの場、子ども参画の実現の場（企画・実施等への子ども参加）。
・親として、子育てへの参画により地域での役割を感じる場、次世代への経験等の継承の場。
・地域にとって幅広い世代のつながりが生まれ、地域の子どもの問題を考える場、行政とのパートナーシップについて体験する場。
・地域における子どもの課題を住民と行政が協働し、解決してゆく場。

⑥ プレーパークにおける事故の考え方

・プレーパークの基本は、子どもが自由に活き活きと遊ぶ場であり、事故ケガも起こるということを参加する子どもや保護者に周知する。
・「ケガ等の時どの様なケアができるのか」を利用者（子どもと保護者）で考える。救急救命等講習会の実施。
・重大な事故を未然に防ぐ努力。プレーリダー等の配置、環境管理。
・事故でのトラブルの対応は、運営者が誠意を持って対応。ボランティア保険・傷害保険等の加入、自己責任で遊ぶ場であること等の説明責任。
・緊急対応マニュアルの整備、医療機関との連携。
・事故報告等八千代市への報告と対策協議。

第２章　これまでのプレーパーク事業の取り組みと現状

平成20年５月10日にオープンセレモニーを実施する。式の実施は八千代市民プレーパークの会とNPO法人こども福祉研究所が行う。名称が公募され「新川わくわくプレーパーク」と命名される。

1. 新川わくわくプレーパークの実施状況（資料２）

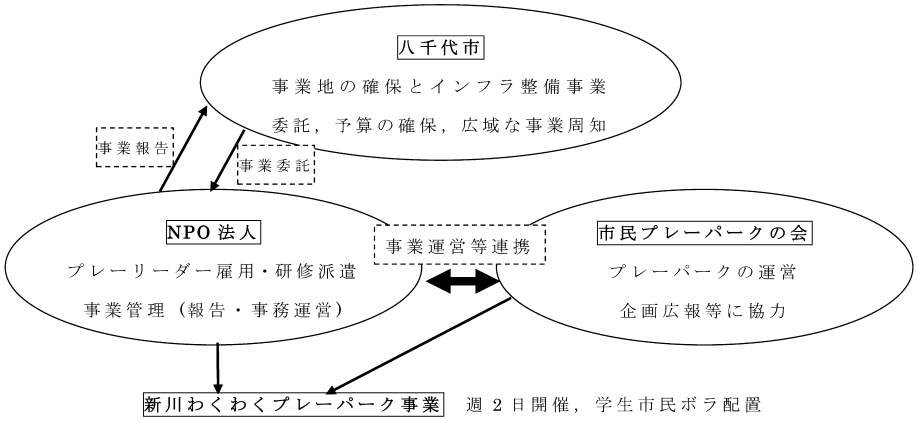
オープンセレモニーから現在まで週２回、土曜日と日曜日に開催する。開催時間は午前10時から午後４時。

開催時は、プレーリーダー3名とスタッフ1～2名学生ボランティアの配置。

平成20年度開催　87回	参加子ども　3,424人	大人　2,154人	計　5,578人
平成21年度開催　96回	参加子ども　3,574人	大人　2,375人	計　5,949人
平成22年度開催　94回	参加子ども　3,132人	大人　1,920人	計　5,052人

3年間の1回開催の平均人数、子ども約37人　大人約23人　計約60人

2. 八千代市・NPO法人・市民の会の役割



3. こども福祉研究所の初年度（平成20年度）事業報告より（資料3、資料4参照）

・利用者数（利用時の調査）

初年度開催87回。参加子ども3,424人、大人2,154人、計5,578人。1回1日平均利用者数　64.1人。

屋外型遊び場のため、天候・季節に来場者数が左右される。日々の活動が積み重なるにしたがって、雨でも風でも嵐でも来場する子どもが見られるようになる。年間通して継続して利用する子ども・親子も定着しつつある。

・利用者登録者の居住地区

八千代市内	1,616人	86.2%
市　　外	211人	11.3%
不　　明	47人	2.5%

9割近くが市内の利用者。はなれた地域からの利用者は、休暇等で祖父母の家に遊びに来ての利用ケース、家族旅行のケースなど。

利用の多い地区は、ゆりのき台、村上、大和田新田、萱田町等プレーパークの近くの地域となっている。

・年齢別登録者数・学年

幼　児	844人	45.4%
小学生	971人	52.3%
中学生	34人	1.8%
大学生	1人	0.4%

幼児・小学生の利用が約98%となる。

・のべ利用回数と人数

1回	1,346人	6回	15人
2回	284人	7回	9人
3回	109人	8回	2人
4回	44人	9回	10人
5回	21人	10回	1人

利用者数の5分の1が1回の利用になっている。

・年度末の利用アンケートより（子ども回収、72人）

回答者のうち幼児、小学生が9割以上。

利用したい季節（複数回答）

春	19.4%
夏	30.9%
秋	13.9%
冬	2.8%
いつでも	41.7%
わからない	9.7%

これまで参加したイベント（複数回答）

竹　工　作	15.3%
じゃがいも	4.2%
収　穫　祭	4.2%
どんど焼き	6.9%
参加なし	61.1%

プレーパークを知った方法

友　だ　ち	23.60%
市のチラシ	1.40%
市広報ＨＰ	12.50%
ＮＰＯＨＰ	1.40%
近くを通って	18.10%
家　　族	30.60%
学校のチラシ	8.30%
未　記　入	5.60%

プレーパークに来た目的（複数回答）

友だちと遊ぶため	29.20%
親に誘われて	15.30%
プレーリーダーに会いに	4.20%
友だちと会えると思い	4.20%
自然の中で遊ぶため	37.50%
いつも楽しいから	16.70%
近くに来たから	15.30%
その他	1.40%
未記入	4.20%

プレーパークのいいところ（複数回答）

広い	41.70%
走りまわれる	36.10%
プレーリーダーがいる	26.40%
大学生がいる	4.20%
好きなことができる	40.30%
お昼が食べられる	6.90%
市の施設	5.60%
友だちができる	6.90%
楽しいおじ・おばちゃんがいる	2.80%
自然遊びができる	43.10%
火遊びができる	26.40%
泥遊びができる	25.00%
木工ができる	34.70%
ロープ等手作りの道具がある	26.40%
特になし	1.40%
未記入	1.40%

・今後プレーパークでしてみたいイベントや遊び
キャンプ、みんなで野球、木のブランコ作り、工作をもっとやりたい、本物の弓作りたい、ベイブレード大会、ロープでエレベーター、サッカー、じゃんけん、トンネル競争、水遊び　アーチェリー

第３章　新川わくわくプレーパーク事業のこれからのあり方

1. 現在までの４年間のプレーパーク事業の活動

子どもたちの大きな事故もなく現在に至って来ているのは、プレーリーダー・市民ボランティア・学生ボランティア・八千代市役所子ども元気課・NPO法人の努力の結果であろう。毎月１回開催される八千代市民プレーパークの会の理事会において各理事関係者が、議題について十分議論を交わし、納得の得られるまで話し合ってきた。

八千代市民プレーパークの会メンバーの大半は、八千代市にプレーパークを作る会の実行委員会のメンバーであり、継続して活動をしてきている。プレーパークの敷地内の整備は大変だったとの事である。当時は荒地になっていて、雑草の除去や不法投棄された物品が20tトラックで5台分もあったとのことである。そのメンバーたちが「子ども自身が自分で発見し、自分の力を試し自分の責任で自由に遊ぶ場・子どもの成長の場、大人は子どもの遊びを見守りサポートを行う」を基本に運営を行ってきている。

プレーリーダーは、子どもの視点に立ち、子どもたちの最大の利益の尊重を日々の実践の中で行ってきた。その結果、遊びが子どもたち一人一人の発達を促進してきた。「やりたい」という子どもの挑戦する気持ちを大切にし、見守り・一緒に考えてきた。遊びから学ぶことは、道具の使い方、安全の意味、社会性、コミュニケーションなどである。参加には強制はなく、おもしろいから・楽しいから参加する。プレーリーダーや親、場に関わるすべての人にとって、いろんな気づきや新たな展開のきっかけになっている。

2. 市民参加型のプレーパーク事業と他機関との連携

八千代市は、新川わくわくプレーパークの運営を市民参加型の事業として位置づけ、ボランティアの募集から行い、各地でのプレーパークの実践に学びながら子ども支援者養成実践講座を積み重ねて行ってきた。経験や年齢の違いを越え、趣旨に賛同する人たちが集まってきた中で、市民が中心となって行うには時間がかかった。こども福祉研究所が、初年度は八千代市からの委託を受けて事業を行ってきた。当初は、学生のボランティアも日本大学・東洋大学・植草大学等が中心であったが、八千代市が東京成徳大学との提携に努力した結果今は東京成徳大学の学生が中心となっている。東京成徳大学は、「ボランティア体験に根ざした学生育成と地域連携に関するプロジェクト」を組み、組織的に学生に対して大学教員が関わりながら地域との連携を図ってきている。

八千代市で行っているその他の関連事業として、八千代市おにいさんおねえさん子ども電話相談（東京成徳大学との協働事業：目的 —— 子ども自身が気楽に相談・意見表明することができる窓口を設置することにより子どもの人権・権利を確保）、フリーパレット（東洋大学との協働事業：目的 —— 中高生の居場所として誰でもが自由に来て遊んだり読書をしたりできる自由空間として中高生が集える場）、子ども支援センターステップ勝田台・大和田（目的 —— 安心して遊べる場・仲間作り・気軽に相談できる場）、子ども人権ネットワーク（目的 —— 子どもの人権に関する総合的な検討・啓発・研修等を実施）などがある。各事業に来る子どもたちの中には、家庭内で問題を抱える子どもたちもいる。現在までは、気になった子どもがいる時、八千代市の子ども元気課の職員が間に入り、個別の連絡会などが行われている。今後については、定期的に年4回位は各担当者の方で顔合わせをし、子どもや家庭との情報交換や研修等をし、幼少時より地域の中で予防的対策ができるよう普段から交流を積極的に進めていく必要がある。

3. 継続して場の確保を図る

プレーパーク事業は、国と県の委託事業費で行われてきた3年間の事業であったが、平成23年度は八千代市の単独事業として行われてきている。1回の参加が約60名近くあり、子どもたちや親等に有意義な場を提供し、プレーリーダーがいることで更に安心・安全の場となっている。市民や学生のボランティアの多数の参加によって維持している。単年度予算で、いつ切られるかわからない状態では地域に密着した良い事業の展開は図れない。今後も引き続きプレーパーク事業が継続できるようにすべきである。それが保障されなければ、せっかく育ってきたいい人材・事業・施策も地域に定着するはずはない。

4. 家族支援、地域支援の充実を

「社会的養護の課題と将来像」（厚生労働省、平成23年7月、p. 3）の基本的考え方の中で、「地域支援等の機能は、親子関係の再構築などの家庭の調整、自立支援、アフターケア、地域における子どもの養育と保護者への支援機能　すべての子どもと家庭のために子育て支援施策を充実させていく中で、社会的養護の対象となる子どもにこそ、特に支援の充実が必要である。また社会的養護と一般の子育て支援施策は、一連の連続性を持つものであり、密接な連携が必要である。」と述べられている。

プレーパーク事業やそれに関連する事業が現在進行している。これらが更に有機的に連携し、十分な予算的な措置を得て発展的な取り組みを展開することが求められる。八千代市の子育て施策の中に反映をされることを強く期待する。

おわりに

平成24年1月7日のどんど焼きの行事に参加した。市民の会のメンバーは前日より準備をしていた。当日は強風のため、風除けをシートなどを使って作業する人、餅などの用意をする人、正月に倉庫に泥棒に入られてその始末や予防の作業する人等、誰に指示されるわけではなく、参加した役員たちは自発的に準備を行っている。点火をした後も、プレーリーダーは全体の配置につき、各持ち場をしっかりと管理し、子どもや親等に接している。新年の行事が地域の中でなくなっている現状の中で、プレーパークの中で新たな地域のつながりが展開している。強風の中で100名近くの人たちが、餅・スープ等でおなかを満たし、今年の無事を祈っている。

行事が終わって、喫茶店での役員同士の何気ない会話の中に人のつながり、地域のつながりを強く感じた。仲間の大切さ、暖かさ共に行事をやり遂げた喜びを感じた。本当に、よき仲間・相棒であることの思いを強くして、満たされた気持ちで帰路につく。

参考文献等

1）八千代市役所ホームページ
新川わくわくプレーパークが開設まで、オープンセレモニー
http://www.city.yachiyo.chiba.jp/sisetu/play-park/open.html
2）「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム実行委員会『全国自治体シンポジウム2008報告資料集』p196～201
3）特定非営利活動法人八千代市民プレーパークの会『総会資料』平成21年度、平成22年度、平成23年度

資料１

どんなところ？

森と広場があります。ここには、自然の素材がたくさんあります。
木、土、水、火。竹を切って工作もできます。遊具などはありません。
自分たちで作ることは出来ます。プログラムもありません。
どんなことができるかな？一緒に探しましょう！

「プレーパーク」ってなに？

プレーパークとは、子どもが遊びを作る遊び場です。

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとして、子どもたちが自由にのびのびと遊べるように、禁止事項をなるべくなくして、子どもの「やりたい」という気持ちを大切にしています。

「プレーリーダー」と呼ばれる大人がいて、大きな事故につながらないように危険には目配りをしていますが、少しのケガは「それも大切な経験のうち」という考えから、子どものすることにはなるべく口出しせず、見守ることにしています。　プレーパークはヨーロッパで生まれ、日本では 1970 年代から世田谷で始まりました。現在全国 200 カ所以上で開催されています。

近年、遊びの中でこそ育まれる力、「やってみたい！」という意欲や集中力、仲間とともに作り上げるための協調性やリーダーシップ、体力や柔軟性、感覚器官の発達、などなどが注目されています。

子どもが遊べる身近な自然が少なくなり、子どもから子どもへと受け継がれていた「遊びの文化」もなくなってしまった今、大人の手でそれを作る必要があるのです。

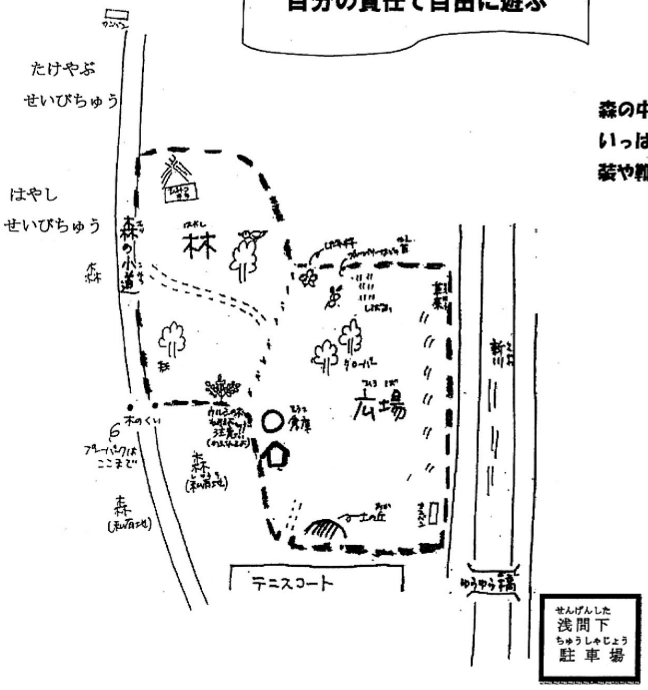
このプレーパークは、行政と市民が協働で開催します。
みんなで楽しい遊び場を作り上げていきましょう！

新川わくわくプレーパーク
八千代市
開催日時：毎週土・日開催
10:00 から 16:00
場所：八千代市総合運動公園隣接地
ゆらゆら橋　萱田方面

＊ 自由に遊べる場所ですが、周囲への配慮も考えて遊びましょう。
＊ プレーパークの開催日は、週2回土曜日と日曜日です。プレーリーダーは開催日のみプレーパー クの中に常駐しています。
＊ 近くに川がありますので、子どもだけで遊びにきた場合、行き帰りの際の事故等にはくれぐれもご注意ください。
＊ 森の中には、虫やはちがいますので、虫刺され予防の用意や服装を準備して、楽しんでください。
＊ プレーパーク内では禁酒・禁煙です。
八千代市プレーパーク事業は、八千代市から「特定非営利活動法人八千代市民プレーパークの会」に運営を委託し、実施しております。

＊ お問い合わせは曜日によって変わります。
平日(17:00まで)：八千代市元気子ども課　047－483－1151
土・日　　：特定非営利活動法人
八千代市民 プレーパークの会 08030357794

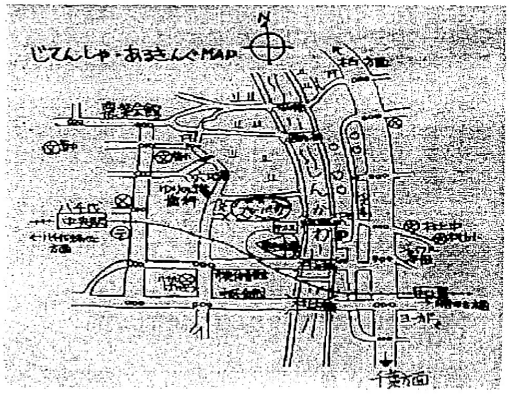
自分の責任で自由に遊ぶ



なにして遊ぶ？

森の中には、はちやむしもいるから、気をつけて遊ぼうね！
いっぱい遊べるように動きやすくってよごれても大丈夫な服装や靴で、来てね！

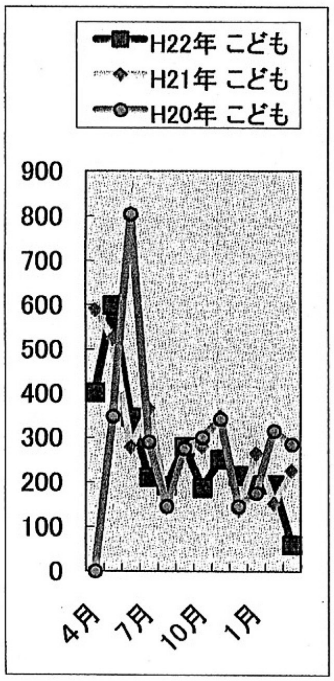
アクセス
徒歩：東葉高速鉄道村上駅・八千代中央駅より約10分
車：浅間下駐車場をご利用ください

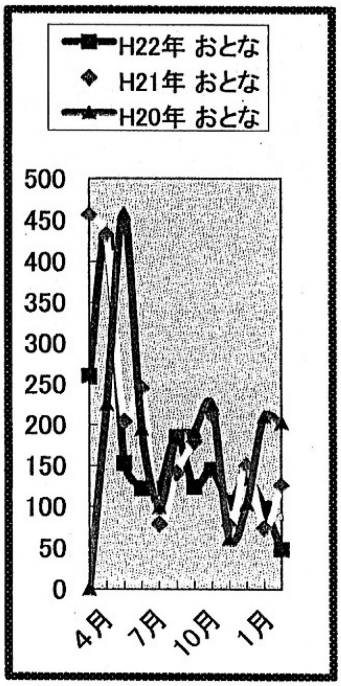


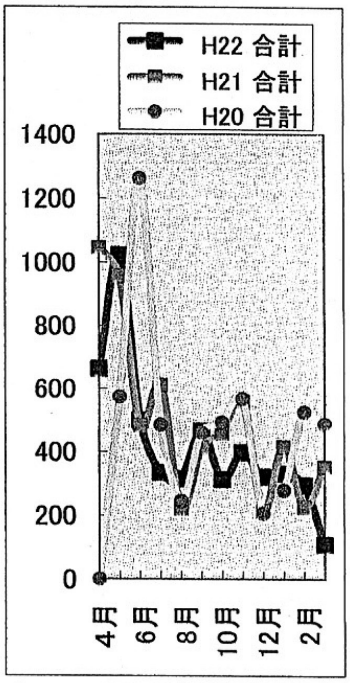
資料２

平成23年3月31日

新川わくわくプレーパーク　利用者数　H22年　～ H20年







平成22年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
開催日数	8	10	8	8	7	8	10	8	9	8	8	2	94	
子ども	402	599	346	211	192	279	187	251	215	195	195	60	3132	33
おとな	260	423	153	122	122	185	124	145	105	135	98	48	1920	20
合計	662	1022	499	333	314	464	311	396	320	330	293	108	5052	54
一日平均	83	102	62	42	45	58	31	50	36	41	37	54	54	

平成21年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
開催日数	8	10	8	8	6	8	9	9	6	8	8	8	96	
子ども	589	524	278	366	142	270	279	348	136	265	151	226	3574	37
おとな	456	432	204	245	79	141	179	212	77	150	74	126	2375	25
合計	1045	956	482	611	221	411	458	560	213	415	225	352	5949	62
一日平均	131	96	60	76	37	51	51	62	36	52	28	44	62	

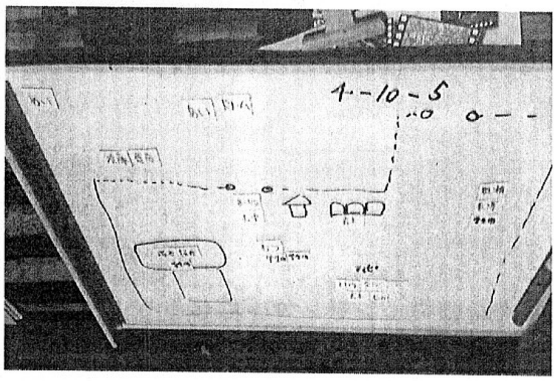
平成20年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
開催日数	0	7	9	7	8	8	8	10	6	7	8	9	87	
子ども	0	348	804	290	145	275	300	342	145	175	315	285	3424	39
おとな	0	225	458	194	99	185	192	225	61	103	210	202	2154	25
合計	0	573	1262	484	244	460	492	567	206	278	525	487	5578	64
一日平均	0	82	140	69	31	58	62	57	34	40	66	54	64	

資料3

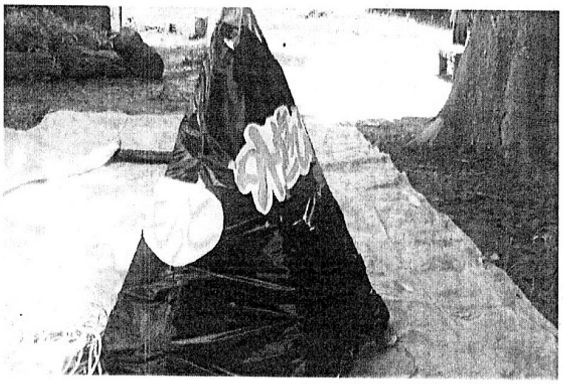
何して遊んだのかな？「平日特別プレーパーク」

新川わくわくプレーパークでは、「もっと もっと もっと 外遊び」を合言葉に、8月28日(土)、29日(日)、30日(月)に行われた冒険遊び場全国一斉開催にあたり、3日間連続でプレーパークを開催しました。

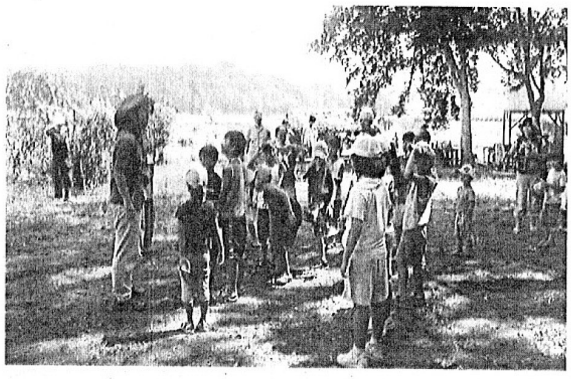
平日に特別開催した8月30日(月)には、「みんなでインディアンテントを作ろう」などの特別プログラムも行いました。



30日朝一番で、八千代が誇るプレーリーダー9名と八千代市民プレーパークの会、大学生ボランティア、市職員など総勢20名のスタッフにより、フォーメーションなどの作戦会議が行われる。



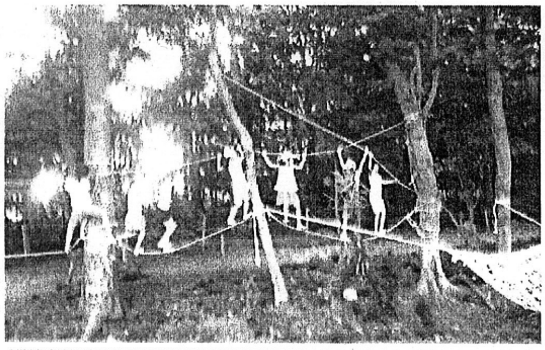
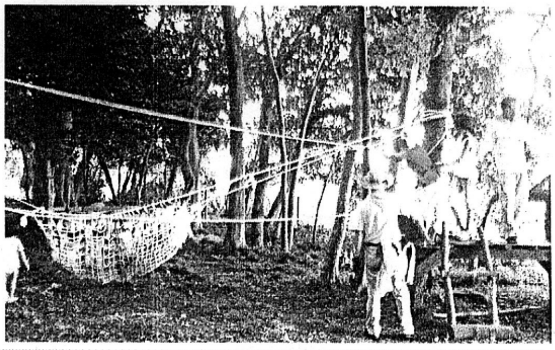
上総堀りの井戸水による巨大プール作り！



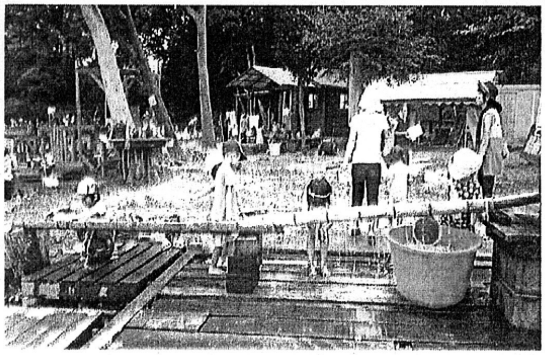
"キャプテンこた"による「自分でやれることは自分で考えてやる！」を合言葉に、インディアンテント作りが始まった。

資料４

わくわくの森のインディアンになろう！　世界に１つだけのオリジナルティピの完成！

「みてみてー、おさるガールだよー!」　「こわいけどおもしろーい！」　「この井戸水つめたいよー!!」



ゴミ拾いや草刈りなど，いつも陰で支えてくださる皆さまありがとうございます！　発行：八千代市役所　元気子ども課